

院内がん登録

がんセンター 横井 美由紀

2023年分の「院内がん登録」の集計結果をご報告いたします。

院内がん登録は、病院で診断、治療された全ての患者さんのがんについての情報を診療科問わず病院全体で集め、その病院のがん診療がどのように行われているかを明らかにする調査です。がん検診で見つかった患者さんが多いのか、他の病気でかかっているうちに発見された患者さんが多いのかなど受診までの経過の違いやがんの種類別の違い、あるいは手術の数が多いか少ないかなど病院のがん診療の特徴を把握するために定期的に行われています。

登録対象 入院外来を問わず、下記の期間中、新たに受診・診断・治療の対象となった腫瘍

期間 2023年1月～12月

件数 全登録数801件のうち、症例区分80その他を除く ※集計対象件数：775件

※国立がん研究センターがん対策情報センターが実施する全国集計において症例区分80その他を除外したデータを集計対象と定義しています。症例区分80には、他施設で診断され、治療目的に紹介されたが、治療が行われず、他施設へ紹介となるようなケースの症例が分類されます。

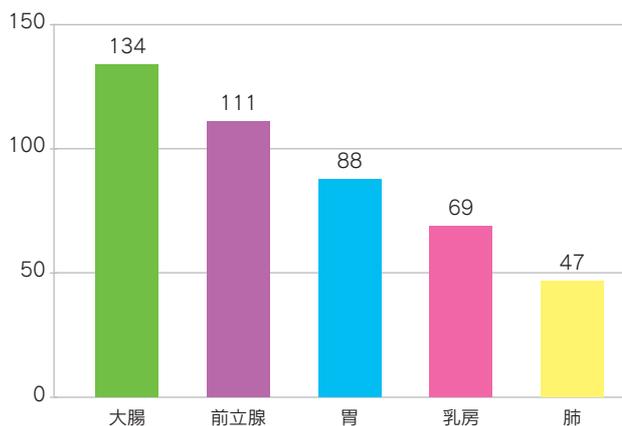
◆がん登録件数は医療機関で診断、確認された症例数であり、がん発生数罹患数とは異なります。同一症例が他の医療機関でも重複登録される場合があることから、場合によって両者に大きな差が生じることがあります。

◆個人情報につきましては、法令および厚生労働省のガイドラインに基づき適正に取扱い、保護、管理を行っています。

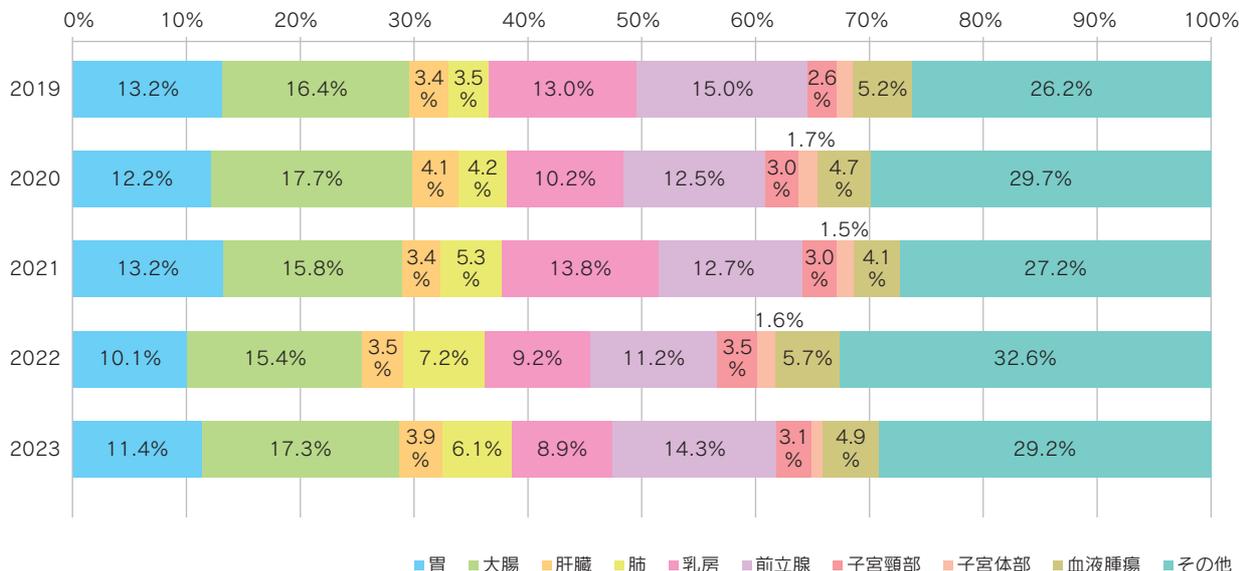
◆登録数の年次推移



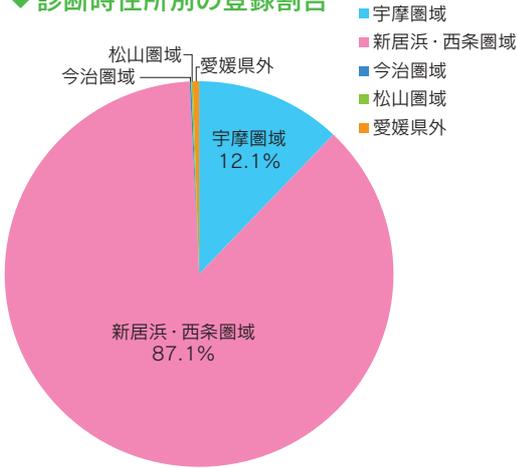
◆部位別登録数の上位5部位



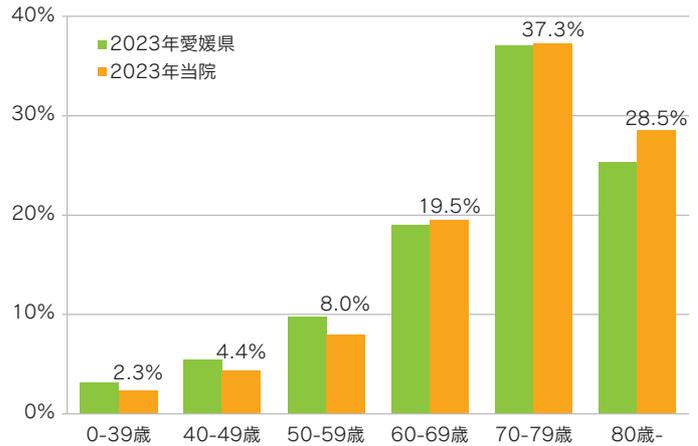
◆部位別の登録割合



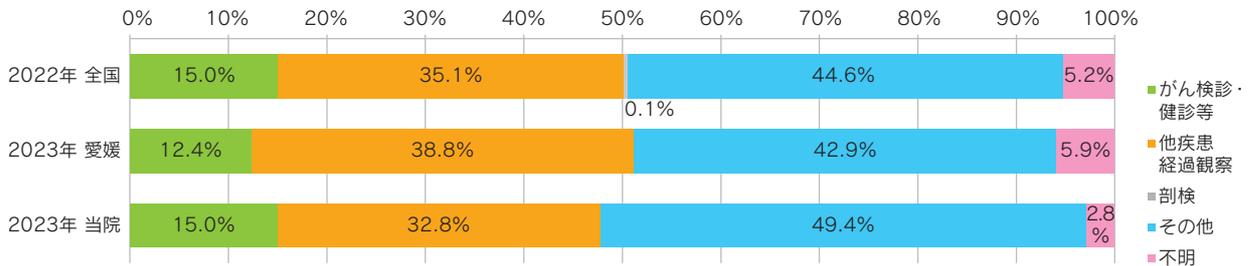
◆ 診断時住所別の登録割合



◆ 年齢階級別の割合



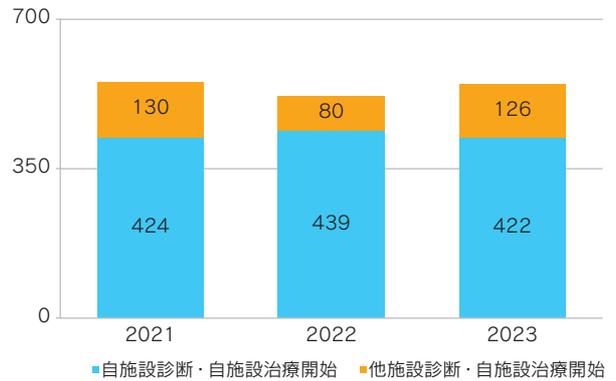
◆ 発見経緯 愛媛県全体・全国値との比較



◆ 自施設でがんと診断した症例の年次推移



◆ 自施設初回治療開始症例の年次推移



住友別子病院は新居浜・西条地区の1次2次救急医療を担っており、年間2700件を超える救急搬送件数となっています。一方2005年に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けてからは、がん登録を開始するとともにがん診療体制を整備して参りました。

2018年には新病院への建て替えを機にPET-CT導入、放射線治療機器の高精度上位機種への更新、IVR-CT導入、手術支援ロボットの導入等の設備更新を行い、高度ながん診療を提供できるようになりました。また、薬物療法を行う外来化学療法室の充実や治療面の整備、緩和ケア病棟の運用や在宅緩和診療における地域連携の構築などにも取り組み、がん診療全般にわたる多様なニーズに応えられるよう取り組んでおります。

院内がん登録件数は年々増加し、801件と過去5年間で最大となりました。部位別に見ますと胃 大腸 前立腺の増加がみられるのに対し、乳房 子宮は横ばいです。

自施設でがんと診断した症例は、診断のみを含めて例年並みでしたが、他施設診断・自施設治療開始症例が増えており、近隣の医療機関からの紹介例が増加しています。ただ自施設責任症例割合は、例年同様愛媛県平均より低く、自施設で完結できる様、専門性を高めることが必要と感じています。

年齢の割合は70歳以上の高齢者が多く、特に80歳以上の女性の比率が高くなっており、当該地域の高齢化が関わっていると考えられます。高齢化が進むと、合併症を抱えた患者さんが多くなる事から、合併疾患の治療も行いながら、患者背景も考慮し他科や多職種との連携を取り、がん診療を進めていく必要があります。

(副院長 中川 和彦)